

## あとがき

第67回関東大会山梨大会に係る検討、計画、準備の段階から中止決定までの経緯を記することで、「あとがき」とします。

2年前、令和元年7月に山梨大会で使用する会場を決定し、特例申請等を使い、会場の確保を始めるとともに、大会を演出するイベント業者、来県者の宿泊や輸送をお願いする旅行業者の選定など、令和元年における準備は順調にすすめることができました。

ところが、年が改まり、令和2年の始まりとともに全国的に広がった新型コロナウィルス感染症により、第66回関東大会郡馬大会をはじめ、全国各地区のすべての地方大会が中止、島根県で開催予定の全国大会も延期の止むなきに至りました。

こうした中で、本県においては、令和2年5月の県高P連定期総会（書面表決）において、金丸正氏が会長に、島村茂幸氏、保坂喜一氏、望月裕司氏、中川恒明氏、渡邊卓史氏の5氏が副会長に選任され、令和3年度の山梨大会に向けての検討・準備が本格的にスタートしました。

そこで、山梨大会を開催するに当たって、次のような方針を立てました。

**方針①** 新型コロナに対応するため、大会への参加者数を会場の収容定員の1／2にすること。このため全体会においては、県内の参加者は会場内に入らず、お手伝いに徹することで、参加者の上限を2,000人以下に抑えること。

**方針②** 令和2年度の単Pの会長は、全員が大会の実行委員になりその任期は大会終了後まで継続すること。

①については、県外からの参加者を抑制することになり、大会収入の観点から非常に大きな課題になりましたが、本県高P連の負担金を増額すること、昼食時に弁当の配布をしないことなどにより、なんとか採算の見通しを付けることができました。

②については、単Pの数が39という山梨県の小規模性を活かした初めての取組で、中途の段階で結論を出すことは難しいのですが、多方面にわたりスムーズに準備を進めることができたと考えています。

新型コロナへの対策も含め、大会内容の検討や計画・準備は極めて順調に進んでいましたが、関東地区において2回目の緊急事態宣言が発令され、開催期間中にも再び感染者数の増加が予想されたことから、令和3年3月末に開催した関東高P連の臨時役員会において、山梨大会の開催を断念することにいたしました。

なお、オンラインによる開催も検討しましたが、1つは予算面、2つ目はオンラインにしても一定の参加者が必要で、密が避けられることなどから、やはり困難あると判断しました。

案の定、3回目の緊急事態宣言が発令されるとともに、6月に入り本県の感染者数の割合が全国で2番目に悪い状況になり、県知事からもイベント等の自粛が求められる事態になったことを見ると、この判断は間違っていなかったと思っています。

この1年間の経緯を振り返る中で、保護者の皆様からいただいた貴重な会費を有効に使うにはどのようにしたら良いか、大会そのものも従来どおりで良いのかなど、考えさせられることが沢山ありました。コロナ禍での経験をただの一過性のものにせず、今後の高等学校P.T.A連合会の在り方を考える一つの試金石にできたらと考えています。

終わりになりますが、金丸会長をはじめとした本県の6名の役員さんには、令和2年6月から令和3年3月まで間に、4回の役員会、5回の準備委員会、2回の実行委員会、3回の関東高P連役員会のすべてに参加し、常に建設的なご意見をいただき心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。そして、ご苦労様でした。

令和3年7月吉日